

レコード芸術 3月号 (2012年)

G e i j u t s u D i s c R e v i e w

畠中良輔●Ryosuke Hatanaka

川島幸子については向こうからの友人の便りで時々その評判を聞いていたが、彼女の歌を聞くのは初めてである。リコ・レジエーロ・コロラトゥーラの声で、広い声域を自由に駆使し、特にR・シュトラウスの作品に適応力が抜群である。彼女は最初、ピアノ専攻で東京音大を卒業しているが、やがて声楽に向向、ドイツで发声からその表現法に至るまでを細部にわたって訓練された。

透明な、ムラのない声色の自在なひびきが快い。各曲に示された、曲と詩への把握力は的確で、ことに『ブレンターノの詩による6つの歌』をここまで歌えるソプラノはなかなか見当たるまい。超高音域も危な気の全くない完全な呼吸法で支え切っている。ただ、その6曲の中でも『あなたの歌が私の心に響くとき』や、『女たちの歌』の高音域のスピント時につけてはいまひとつ、そのドラマティックな表現の中に『ふくよかさ』が欲しかった。

R・シュトラウスの歌曲に対し、ドヴォルザークの『ジアシードの歌』全曲は、いささか印象が薄い。ドイツ語に作曲されたものだが、ロマ人たちの日常の生活の中に織り込まれた日々の労働、祭り、ボヘミアの草原の夕暮れなどの各情景がいささかソフト・フォーカスの味わいである。

ピアノの川島基が絶妙なシュトラウスを聴かせる。その柔軟な表現の多彩さ、そして夢幻自在に繰り出される音の氾濫を見事に聞き手に伝えている。この二人の2枚目を待つ。

神崎一雄●
Kazuo Kanzaki

【録音評】リリック・コロラトゥーラ・ソプラノの歌唱を、いわば主役的に明瞭度高く収録したアルバムである。あまり広くはなさそうだがほどよい残響を持った空間での収録というイメージの録音。伴奏ピアノはあくまで伴奏に徹したイメージで、歌の背後でほどよい響きを広げている。ハノーファー、ハーゼンホフ・ホールでの2011年7月のLハースによる収録。〈90〉



■川島幸子/R.シュトラウス&ドヴォルザーク歌曲集

〔①R.シュトラウス：おとめの花②同：ブレンターノの詩による6つの歌③ドヴォルザーク：ジアシードの歌〕

川島幸子(S)川島基(p)

[カメラータ(CDT1088)] ¥2500